

梅新第一生命ビルディング

UMESHIN DAI-ICHI SEIMEI BUILDING

No. 13-013-2010作成

新築
事務所

発注者	第一生命保険	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB		
設計・監理	竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	竹中・奥村・銭高・西松・日本建築共同企業体	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

サステナブルデザインと参道の再生

梅新第一生命ビルディングは国道1号線と2号線の分岐点である梅田新道交差点に面して計画された賃貸オフィスビルである。敷地北側にはお初天神として親しまれている露天神社があり、その門前にはかつて、蜷川から続く200mの参道があった。「敷地整序型区画整理事業」により高度利用を図りながら、わずかに残された参道を敷地内に内包することで土地の歴史を継承している。

サステナブル・エンジニアリング + デザイン

[方位を意識した配置計画]

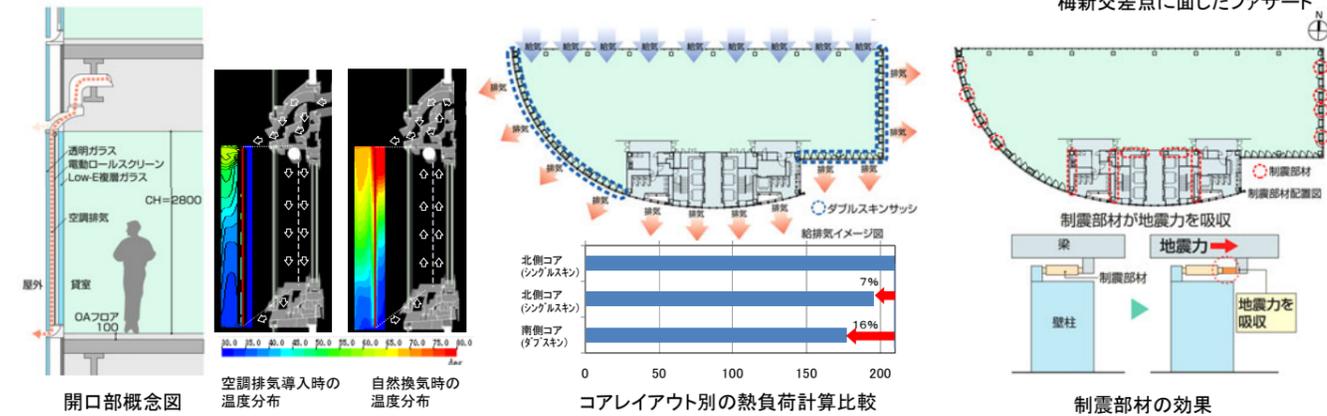
大阪のメインストリートである御堂筋に面しているにもかかわらず、あえて南側コアとし、東西面はPca壁柱によって室内開口面積を低減し、かつ開口部はダブルスキンカーテンウォールとすることで熱負荷を大幅に低減した。北側はLow-E複層ガラスの全面シングルスキンカーテンウォールとし、ブラインドによる遮光不要の安定採光を可能とした。

[熱負荷と地震力を低減する外装システム (e-WALL)]

日射負荷の大きい東西面に設置した日射熱取得率0.07~0.04の超高性能ダブルスキンカーテンウォールは、ダブルスキン間に室内空調排気を導入することによって、年間を通じてペリメータ部の空調負荷低減が図れる。またその後ろのPca壁柱の頂部に、112基の制震部材をバランスよく設置した。Pca壁柱と鉄骨架構の変形差で地震エネルギーを吸収する減衰こま(重さ:35kg/基)は、1基あたり41.6kNの最大減衰力を発生し大地震時の建物変形を抑えることが出来る。



梅新交差点に面したファサード

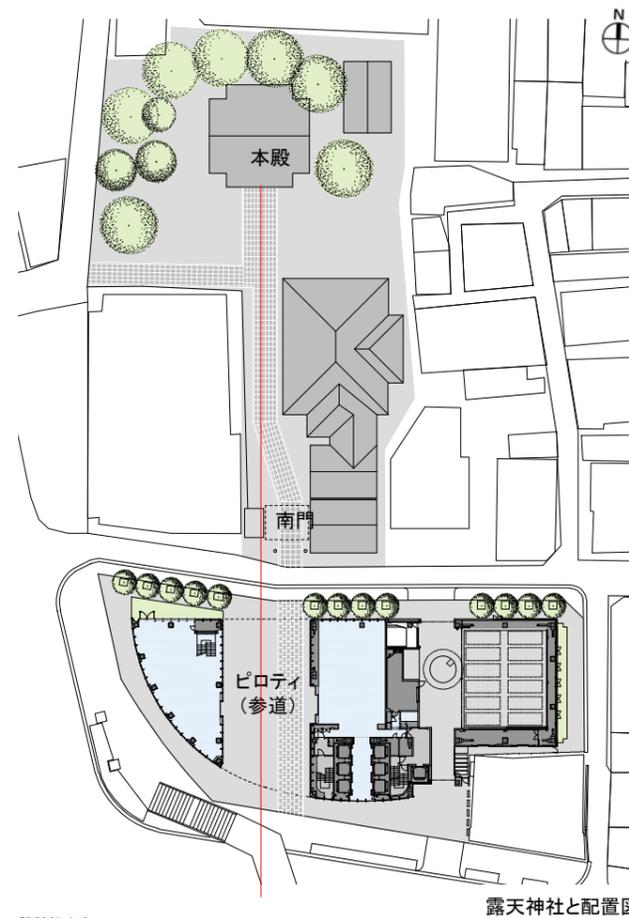


参道の再生と歴史の継承

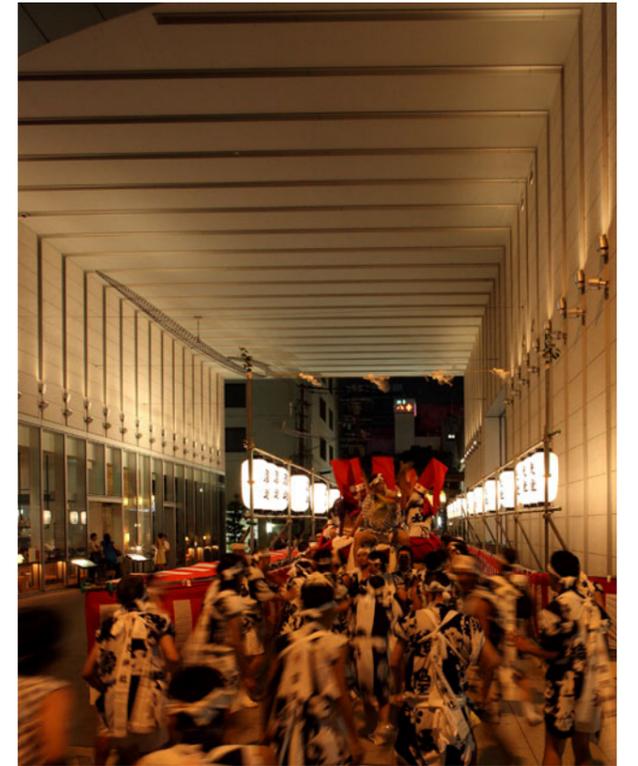
敷地の北向かいには、近松門左衛門による曾根崎心中の物語の舞台となった露天神社(通称:お初天神)があり、地域住民のみならず大阪の名所として市民に親しまれている。

露天神社の門前には、堂島川から分岐していた蜷川に向けて200m程の参道があったが(図1)、御堂筋と国道の整備により近年では幅4m・長さわずか30mほどを残すのみ(図2)となっていた。

その参道を中心に、東西に分かれていた2つの敷地を「敷地整序型土地区画整理事業」の手法を用い1敷地に整備した。従前に参道でもあった市道を一旦廃道し、新しい建築の1階中央部に幅13m・高さ10mのピロティ空間に参道を内包することが、区画整理事業の骨子であった。将来にわたり永続的に、参道の機能を発揮するよう、「連続する鳥居」をモチーフとしたピロティデザインを展開し、境内から延伸するペイジメントとあわせ、建築的に聖域性を表現した。また地役権の仮登記を行うことで、法的にもその永続性を担保した。



設計担当者
統括: 薄田 学/建築: 有田 博、中村圭祐/構造: 山下靖彦、前川元伸、大野正人
設備/篠島隆司、古和田卓



例大祭の風景



参道としてのピロティ空間

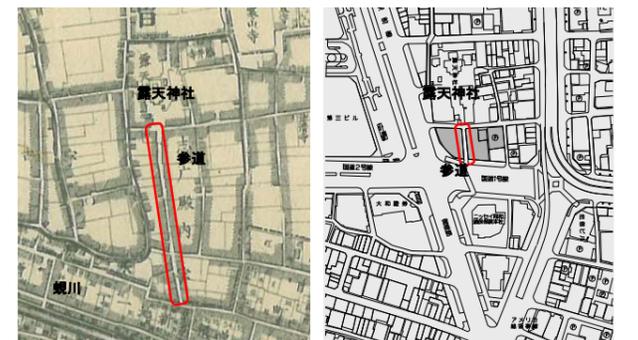
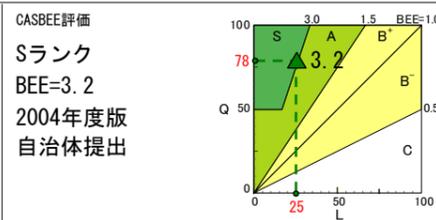


図1: 1888年の古地図

図2: 着工時(2005年)の地図

建物データ	
所在地	大阪府大阪市
竣工年	2008年
敷地面積	2,033㎡
延床面積	23,235㎡
構造	S造一部RC造
階数	地下1階、地上17階

省エネルギー性能	
ERR (CASBEE準拠)	32%



- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (ピロティ) を中心とした公開空地、区画整理による北側道路の拡幅)
 - LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (e-WALL (熱負荷と地震力を総合的にコントロールする融合技術)、超薄型ダブルスキンと空調排気導入による熱性能の向上)
 - LR1. 2. 自然エネルギー利用 (既存躯体 (B3階) を利用したクールチューブ)
 - LR1. 4. 効率的運用 (BEMSによる効率的運用)
 - LR2. 1. 水資源保護 (雨水を利用した散水システム)